

歴史教育における公民としての資質・能力の育成 —平安・鎌倉時代の差別や抑圧に関する歴史を学んだ生徒の変容—

青山 昌平* 真島 聖子**

*附属高等学校

**社会科教育講座

Fostering civic qualities and abilities in history education - The transformation of students who studied the history of discrimination and oppression in the Heian and Kamakura periods -

Shohei AOYAMA*, and Kiyoko MAJIMA**

*Aichi University of Education Senior High School, Kariya, Aichi, 448-8542, Japan

**Department of Social Studies Education, Aichi University of Education, Kariya, Aichi, 448-8542, Japan

Keywords : 歴史教育 公民としての資質・能力 差別 抑圧

I はじめに

1 問題の所在

社会科教育研究・実践において、主権者をいかに育成するかという課題は、年々、重要性を帯びている。特に高等学校では、2015年に選挙年齢が、2022年には成人年齢がともに18歳に引き下げられたことで、高校生が在学中に成人として扱われ、選挙権を有することとなり、政治参加のための主権者教育や、成人にかかわる消費者教育、金融教育が今まで以上に求められるようになった。一方で、投票率の様子を見てみると、令和3年の第49回衆議院議員総選挙の投票率は55.93%で、令和4年の第26回参議院議員通常選挙の投票率は、52.05%であった。ともに、10歳代と20歳代の投票率は60歳以上の投票率に比べて低くなっており、全体の投票率の低さ、特に若年層の投票率の低さが課題であることがわかる。投票や政治参加といった主権者の育成を目指した主権者教育は、長年積み重ねられてきたが、社会変革を起こす若い世代の育成にまでは至っていない現状がある。こうした中、昨年度、「現代の諸課題を取り上げた主権者教育の実践」⁽¹⁾として、ウクライナ戦争を取

り上げた授業を行った。ウクライナ戦争という現代社会の大きな課題について、歴史的背景や原因、戦争の影響など多角的・多面的に学ぶ中で、主権者として必要な資質・能力の育成を目指した。この実践では生徒が興味・関心を抱きやすい内容を学習テーマとすることで、現代的課題に向き合う生徒の姿が見られた。一方で、課題としては、多面的・多角的に社会的事象を考察すること⁽²⁾や、他者と対話や議論を繰り返す力の不足が見られた。また、公民科の授業は単位数が限られているため、このような学びの機会が少なく、主権者教育の継続性や授業時間を確保する必要性を感じた。そこで、主権者の育成を実現するためには公民科だけでなく、地理歴史科の中でも主権者教育に関する授業を行い、地理歴史科と公民科の3年間で主権者教育を充実させたいと考えた。

また、平成30年度告示の学習指導要領では、地理歴史科が大きく再編され、「歴史総合」、「地理総合」、「日本史探究」、「世界史探究」、「地理探究」という新科目が誕生した。これらの科目の目標には、「公民としての資質・能力の育成」が掲げられている。つまり、今

までの主権者教育に通ずる授業の実施や生徒の資質・能力の育成が求められている。こうして、歴史の学習においても公民としての資質・能力の育成が掲げられたこともあり、今回は「日本史探究」において、公民としての資質・能力の育成を目指した授業開発を試みた。

日本史の学習においても、ウクライナ戦争のように、現代の諸課題につながる学習テーマを設定するのが望ましいと考え、「差別と抑圧」とした。現在も交戦中のウクライナ戦争やパレスチナ戦争では、女性や子どもといった社会的弱者が犠牲となり抑圧されている。その他にも、ヘイトスピーチのような外国人に対する差別や抑圧、女性に対する差別や抑圧といった現代には差別や抑圧に関する社会課題が多く存在している。これらを自分事として捉えて多面的・多角的に考えていくことが、歴史学習の中で公民としての資質・能力を育むことにつながるのではないかと考えた。

2 研究テーマの焦点化

(1) 歴史学習で育成できる公民としての資質・能力とは何か

これまで、歴史学習の中で公民としての資質・能力の育成を目指した実践は、数多く行われてきた。加藤公明(2007)は、鎌倉時代にいた被差別者の様子から、現代の資本主義社会と現在の価値観を相対化して社会の課題の考察につなげる実践を行っている⁽³⁾。歴史の中にある差別を扱いながら現代の問題へと考察を広げている生徒の姿は、歴史学習における公民としての資質・能力につながっていると見えるだろう。また、星(2021)では、歴史論争学習の生徒言説の評価と指導に関する研究を行っている⁽⁴⁾。星(2021)は、学習テーマとしてアイヌ民族の歴史を取り上げ、差別や抑圧といった問題を考察していく中で、生徒の資質・能力の変化とその指導・評価について研究を行った。さらに、星(2022)では、現代社会における不正義や抑圧の解消

を目指す主権者の育成を目標とするセイシャスの歴史教育論をもとにした授業を行い、歴史を学んだ生徒が授業をどのように意味づけたのか研究している。星(2022)では、ウェストハイマーとカーネが挙げた三つの市民性の類型を示し、第三の市民にあたる、社会における不正義や抑圧を解消することを目指す「正義志向の市民」の育成を目指した授業開発を行った⁽⁵⁾。このように、差別や抑圧に関する歴史学習を通して、生徒が社会の課題について多面的・多角的に学習し、自分の意見を構築する授業を通して、自分が生活している実社会の課題に敏感になり、課題解決に向かう公民として必要な資質や能力を高める研究が推進されてきた。

(2) 歴史学習の中で公民としての資質・能力を身に付けた生徒像の設定

このような先行研究を踏まえ、本研究では、差別や抑圧に関する歴史学習を通して、公民としての資質・能力の育成を目指した授業開発を行った。本研究の授業実践では、公民としての資質・能力を身に付けた生徒像として、「現代に生じる社会課題に関する歴史的経緯を学んで知識を獲得し、社会課題に敏感になり、課題に対して議論ができ、課題解決に参画できる生徒」を設定した。

(3) 研究の目的

本研究の目的は、先行研究を踏まえ、平安時代と鎌倉時代に注目した差別や抑圧に関する授業開発と歴史学習における公民としての資質・能力の育成の効果を明らかにすることである。星(2021)では近代史の学習の中でアイヌ民族の歴史が取り上げられており、星(2022)では明治時代の国内政治や外交を取り上げた学習が行われている。このように、公民としての資質・能力の育成を目指した日本史の学習は、近現代史の学習が中心であり、前近代史での学習が不足している。また、加藤(2007)の実践は、鎌倉時代と現代の価値観を相対化させることにつながった学習では

あるが、差別や抑圧の社会構造を読み解く学習の視点からは実践されていない。そこで、本研究では、前近代史に着目し、その中でも、平安時代と鎌倉時代を取り上げ、差別と抑圧に関する社会構造を読み解く授業を開発し、実践した。本研究では、授業を通して差別と抑圧に関する社会構造を生徒がどのように読み解いていったのか、その変容を分析し、日本史探究における差別と抑圧に関する授業の効果を検証した。

II 授業実践の経緯

(1) 授業構想

平成30年度版高等学校学習指導要領「日本史探究」では、大項目Dで「近現代の地域・歴史的環境 (4)現代の日本の課題の探究」が設定されている。この学習では現代の日本の課題について歴史的経緯などをもとに探究する。そのため、古代・中世・近世・近代の各時期で差別や抑圧に関連した学習を行い、それぞれで学んだ内容を踏まえて現代の課題を探究することが有効ではないかと考えた。

授業で学ぶ内容は①各時代の抑圧や差別の様子②抑圧や差別が生じた原因や背景など③現代とのつながりの3つの要素を含む授業展開とした。また、差別や抑圧が生じた社会的な構造や原因を読み解くことに重点を置いた学習を目指した。これは、構造や原因を理解することで、現代の課題とのつながりや見方・考え方の転用が図れると考えたからである。また、すべての単元の最初には教科書の記述にある差別や抑圧に関する記述を取り上げ、自分たちが学んでいる内容と関連していることを強調しながら授業を行った。さらに、各時代の特徴を理解するときに行ったジグソー学習や、自分の考えの意見交流といった他者と対話する場面を設定し、自分の考えに他者の考えを取り入れながら構築していくことを目指した。今回実施した平安時代と鎌倉時代の単元構想は以下の通りである。

表1 平安・鎌倉時代の学習単元

対称生徒：2年生 日本史選択者33名	
実践1 古代の差別や抑圧について 「差別とは、どのように社会の中に形成されるのか？古代の事例から考えてみよう。」	
各授業テーマ	学習内容など
1. 差別や抑圧の授業の導入 【身の回りの差別や抑圧への自分の関心は？】	自分の意識や興味・関心の認識とグループ協議
2. 古代に形成された差別や抑圧 【古代の日本で、ケガレ観に由来する差別はどのように形成されたのか？】	「差別の発生」、「浄土教と貴族社会」、「役割を任せる人々と引き受けた人々」でジグソー学習
3. 古代に形成された差別と現代 古代で形成された差別や抑圧は、現代にも通ずるところはあるか？	前時のまとめを活用し、古代の差別や抑圧が現代につながっているかを考察
実践2 鎌倉時代の差別や抑圧について 「包摂」と「排除」の構造は現代にも存在しているだろうか？鎌倉時代の事例から考えてみよう。」	
各授業テーマ	学習内容など
1. 『一遍上人絵伝』から見る鎌倉時代の差別 【鎌倉時代の仏教による差別の救済にはどのようなものがあったのか？】	(1) 『一遍上人絵伝』から見る鎌倉時代の差別 (2) 「救済」した人々
2. 鎌倉時代の差別や抑圧 【鎌倉時代にはどのような差別が存在したのか？】	「一遍による救済とその理由」、「叡尊と忍性による救済とその理由」、「被差別民が担った役割」でジグソー学習
3. 差別や抑圧の構造 【「包摂」と「排除」と「救済」の構造はどうなっていたのか？】	(1) 「包摂」、「排除」、「救済」の構造化 (2) 現代の差別への転用

※実践3として室町時代の差別の授業を実施済みだが、それは他の研究紀要で報告⁽⁶⁾

(2) 実践1 平安時代の授業

実践1の平安時代の授業では、初回に差別や抑圧の授業全体の導入として、「差別や抑圧に関する問題に興味や関心があるか」と問いかけ、自分自身の意識の掘り下げを行い、授業内容へ入っていきやすくなるように工夫した。特に、差別や抑圧の内容を学ぶだけでなく、問題解決に向かう意欲をもたせるための問いを設定した。

第1時の問い

Q1. 私たちが生きる現代にはどのような差別や抑圧があるのだろうか？

Q2. 自分の身の回りで差別や抑圧を感じることはあるか？またその事例はどのようなものか？

Q 3. 自分が特に興味・関心ある課題はどれか？
 Q 4. 自分がそのような差別や抑圧を生じさせていると思うか？
 Q 5. 自分はこれらの差別や抑圧の問題解決に関わることができると思うか？

これらの問いの中でも特に、Q 4 と Q 5 が鎌倉時代の単元へとつながっていく重要な問いとなった。

2 時間目と 3 時間目では、平安時代の社会の中で重要な「ケガレ観」の理解とそれに関わる差別や抑圧について学んだ。「ケガレ観」の広がりによって、穢れが常に避けられるべきものとなり、それによって人々が忌み嫌う行動や事象が形成された。これらの仕事を担うようになった人々が差別を受けていく社会的構造を生徒たちは学ぶことができた。差別を受ける人たちが社会生活の中で形成されていくことに気づいた生徒が多くいた。

3 時間目のまとめの生徒記述例
 浄土教は、穢れを自分たちの体の中から生じることだと深く認識されていたため人間の死や出産などの生理的な事象に由来したことにより「式」に死・出産・月経などの穢れ観を合理的に外来信仰の考えで整理し、法制化されていた。それに加えて、貴族たちの記録にも不浄などが世間、天下に満ちていると記載されており貴族たちが過剰な反応をしていた。ここから貴族らは穢れに対して規定以上の重く対応することで穢れを回避しようとした。そのため、穢れが肥大していった。また、貴族は人畜の死を避けるために囚人や社会的最下層にいる病者や貧窮者に動物や人間の死体の処理をさせ、その任された清目はもう穢れたものとみなされて差別されていった。

(3) 実践 2 鎌倉時代の授業

実践 2 の鎌倉時代の授業では、「包摂」と「排除」をキーワードに差別の構造化と現代への転換を目指した授業を行った。

「包摂」では社会に必要とされた役割の担っていた様子、「排除」では必要とされた役割を担っていたにもかかわらず差別や抑圧を受けていた人々の様子を、被差別民を救済した人たちの様子から学んだ。

2 時間目のまとめの記述(1)
 差別は葬送などを行っていた人たち（非人）が対象になっていた。律宗ではこのような人たちが構成された組織であり葬送や土木事業を宗教事業としていた。また非人を救済することは菩薩を供養する事と考えられていたため律宗では救済していた。時宗では一遍が率先的にハンセン病患者の治療をしていった。その理由は命ある全てのものは阿弥陀仏を信仰し念仏を唱えれば極楽浄土に行けると考えられていたから。

2 時間目のまとめの記述(2)
 律宗や時宗は非人に恵むことで良い行いの報いを受けられるとされたために癩者や貧者に建物を建てたり教えを授けたりした。一遍は浄、不浄を理由に差別をしていなかったために温泉に浸からせて汚れを落とさせた。また被差別者は交通のことについて労働力として活躍し、社会の役に立っていた。

3 時間目では、この学んだ内容を「包摂」・「排除」・「救済」のキーワードで整理して、鎌倉時代の差別に関する社会の様子の構造化を図った。そして、「『包摂』と『排除』の構造化は現代にも存在しているだろうか？」と問いかけ、鎌倉時代同様に、現代においても社会に必要な役割を担っているのに、差別されたり、抑圧されたり（社会的弱者にされている）する状況はあるのか調べさせた。最後には、実践 1 に引き続き、「今回学んだ抑圧や差別の問題と自分自身は関係していると思うか？」に対して、個人とグループで考える時間を設けた。

Ⅲ 授業実践の分析

1 意識調査の変化

表 2 意識調査の結果 (人)

①現代の社会にある抑圧や差別に関する社会課題を考えるために歴史的な背景や原因を学ぶ意味があると思いますか			
	事前 (33)	実践 1 (32)	実践 2 (31)
非常に思う	30.3% (10)	62.5% (20)	64.5% (20)
やや思う	48.5% (16)	35.5% (11)	32.3% (10)
どちらとも いえない	12.1 (4)	3.2% (1)	3.2% (1)

あまり思わない	9.1 (7)	0 % (0)	0 % (0)
まったく思わない	0 % (0)	0 % (0)	0 % (0)
②現在の社会にある抑圧や差別に関する社会課題と自分にかかわりがあると思いますか。			
	事前 (33)	実践1 (32)	実践2 (31)
非常に思う	9.1% (3)	34.4% (20)	38.7% (12)
やや思う	54.5% (18)	53.2% (11)	54.8% (17)
どちらともいえない	15.2% (5)	12.5% (1)	0 % (0)
あまり思わない	21.7% (7)	0 % (0)	3.2% (1)
まったく思わない	0 % (0)	0 % (0)	3.2% (1)
③現在の社会にある抑圧や差別に関する社会課題に自分から参加しようと思いますか。			
	事前 (33)	実践1 (32)	実践2 (31)
非常に思う	3.0% (1)	18.8% (6)	19.4% (6)
やや思う	45.5% (15)	53.1% (17)	54.8% (17)
どちらともいえない	42.4% (14)	21.9% (7)	16.1% (5)
あまり思わない	9.1% (3)	6.4% (2)	9.7% (3)
まったく思わない	0 % (0)	0 % (0)	3.2% (1)

調査項目①では、「非常に思う」の増加が事前調査から実践1にかけて大きく増加した。差別や抑圧の問題に興味・関心がない生徒が多くいたが、歴史の中にも差別に関わる問題があったことを学び、歴史を学ぶ意義を感じた生徒が多くいた。また、調査項目②でも「非常に思う」と「やや思う」は事前調査から実践1にかけて増加しており、自分の周辺に差別の問題が存在している可能性や自分が無意識に差別する側に回っている可能性に気づいている生徒が多くいた。一方で、調査項目②で「あまり思わない」と「まったく思わない」と回答した生徒が実践2の事後調査では1人ずついた。調査項目③では、事前調査から「どちらともいえない」は減ったが、実践1・実践2の事後アンケートともに「どちらともい

えない」と「あまり思わない」が存在している。このような生徒の意識の変化が生じるような手立てが必要である。

2 振り返りの記述の様子

表3 実践1の振り返りの記述

(複数の要素が書かれている場合は、その都度計上)

①学習を振り返り、新たに気づいた点や自分の理解や関心がどのように変わったのか書いてみよう。	
記述の分類	人数
差別や抑圧の問題と自分とのつながりに関する記述	12人
新たに学びたいこと、知りたいことに関する記述	3人
授業を通してわかったこと・気づいたこと	22人
記述の例 「あんまり差別も抑圧も関係ないかなって思ってたけど、調べてく上で知らなかったが身近にありそうなものがたくさん出てきたので一概に関係ないとは思えないなど。」 「確かに動物を殺傷している牧畜家の人たちを心のどこかで差別していたので、それは昔から差別されていたことを知り、自分達は勝手に差別意識を持っていることに気づいた。」	
②今後の自分に生かすことができる視点や、次に学習したいと考えたことは何か。	
記述の分類	人数
差別や抑圧の問題と自分とのつながりに関する記述	9人
次の学習に向けての記述	18人
現在の問題を考える視点が入っている記述	7人
記述の例 「自分が差別とっていなくてもそれが差別的な発言や行動であることがあるため、相手の立場をよく考えることが大切だと思った。」 「今後自分が今の社会に違和感を持つことがあったりしたら、どういう経緯でその差別ができたのか歴史に関連して調べていきたいです」	

表4 実践2の振り返りの記述

(複数の要素が書かれている場合は、その都度計上)

①学習を振り返り、新たに気づいた点や自分の理解や関心がどのように変わったのか書いてみよう。	
記述の分類	人数
差別や抑圧の問題と自分とのつながりに関する記述	15人
差別の構造に関する記述	8人
授業を通してわかったこと・気づいたこと	16人
記述の例 「昔の差別などを勉強した中で実際には社会に必要で役割を担っている人々なのに人々が避け	

たいことをやらせた上で差別をする事がとても卑怯で残酷な社会だったのだなと感じました。」
「私は、抑圧や差別の問題が自分自信に関係していると思うが、他グループと交流をしたら、実際にいじめを見たら、止めることができないので、自分自身は関係していないという人がいた。でも、止めることはできなくても、話を聞いてあげることなどでも関係していけるのではないかと思った。」

②今後の自分に生かすことができる視点や、次に学習したいと考えたことは何か。

記述の分類	人数
差別や抑圧の問題と自分とのつながりに関する記述	18人
次の学習に向けての記述	14人
現在の問題を考える視点が入っている記述	5人
記述の例 「鎌倉時代にもあったように、現代でも自分が思っているよりも意外にすぐ近くに差別の問題はあると思うし、差別は相手の受け取り方次第で事が変わってくるものだと思うから、差別問題との付き合い方が大切だと思った。」 「現代も昔も差別があることがわかったので昔はどんなふうにもその差別を無くそうとしたのか、内部で再生産された差別をどのように止めたのか学んでみたいと思いました。」	

自分と差別の問題のつながりに関する記述が項目①では、実践1の12人から、実践2では15人と増え、項目②では実践1の9人から、実践2の18人になった。特に、自分自身の「無意識」が差別につながることもあると自覚する内容が多かった。他にも、現代の課題を考える際に、歴史的経緯など歴史を学ぶ必要性を感じている様子がわかる記述があった。また、実践2では、「包摂」と「排除」という差別の構造に注目させる授業であったため、「差別が発生する社会の構造」に関する記述が多くみられた。差別や抑圧が発生する社会構造を捉えるための授業としての成果が見られる。さらに、現代の似たような構造を調べたことで、過去と現在の比較による「相違点」と「類似点」を見つけられた生徒がいた。

3 生徒個人の分析

生徒2名を抽出し、それぞれの意識や学びの様子の変化を分析した。

表5 生徒Aの様子

生徒B：まじめで一般的な生徒で、実践2の意識調査ですべて「非常に思う」と回答した生徒		
事前調査		
①現在の社会にある様々な課題に対して関心がありますか。	あまりない	
②現在の社会にある差別や抑圧に関する社会課題に対して関心がありますか。	ややある	
意識調査の変化		
①現代の社会にある抑圧や差別に関する社会課題を考えるために歴史的な背景や原因を学ぶ意味があると思いますか		
事前	実践1	実践2
やや思う	非常に思う	非常に思う
②現在の社会にある抑圧や差別に関する社会課題と自分にかかわりがあると思いますか。		
事前	実践1	実践2
やや思う	非常に思う	非常に思う
③現在の社会にある抑圧や差別に関する社会課題に自分から参加しようと思いますか。		
事前	実践1	実践2
どちらともいえない	やや思う	非常に思う
振り返りの記述		
①学習を振り返り、新たに気づいた点や自分の理解や関心がどのように変わったのか書いてみよう。		
実践1 グループ活動によっていろんな視点からの意見を持つ人と交流してより自分の意見が深まったし、気づける事も多くあった。		
実践2 今あるさまざまな差別は鎌倉時代から歴史があり繋がっていることがわかりました。葬送儀礼とかは死に関わる仕事でちょっと怖いなというイメージはあったけれど鎌倉時代には穢れを伴う仕事で嫌がられていたと学んでほぼ同じだなと思いました。		
②今後の自分に生かすことができる視点や、次に学習したいと考えたことは何か。		
実践1 自分がそれを知っているか、その問題に直面したかという視点だけではなく第三者としてどう思うか、反対なのか賛成なのか何が問題なのかという視点を次からは大事にしたい。		
実践2 現代も昔も差別があることがわかったので昔はどんなふうにもその差別を無くそうとしたのか、内部で再生産された差別をどのように止めたのか学んでみたいと思いました。		

生徒Aは、事前調査では、社会の課題に対しての関心は「あまりない」で、差別や抑圧の問題への関心が「ややある」と答えた生徒

であった。この生徒は、意識調査において、事前調査ですべての項目が「ややある」から始まったが、実践2を終えたところで「非常にある」に変わった。振り返りの記述の変化が大きく、実践1では他者の考えを聞く良さが書いてあるのみであったが、実践2では、鎌倉時代の学習内容を現在の自分に生かすことができている。また、次の学びたい内容としても、差別の解消や問題の解決という内容に興味・関心が移っている。このような振り返りの記述の質の変化が意識調査におけるすべての項目で「非常に思う」につながったと考えられる。

表6 生徒Bの様子

生徒C：授業態度は並の生徒でワークシートに取り組んでいるが、考査への取り組みは良くない。日本史に対する学習意欲が高くない生徒		
事前調査		
①現在の社会にある様々な課題に対して関心がありますか。	全くない	
②現在の社会にある差別や抑圧に関する社会課題に対して関心がありますか。	全くない	
意識調査の変化		
①現代の社会にある抑圧や差別に関する社会課題を考えるために歴史的な背景や原因を学ぶ意味があると思いますか		
事前	実践1	実践2
やや思う	非常に思う	どちらともいえない
②現在の社会にある抑圧や差別に関する社会課題と自分にかかわりがあると思いますか。		
事前	実践1	実践2
あまり思わない	どちらともいえない	あまり思わない
③現在の社会にある抑圧や差別に関する社会課題に自分から参加しようと思いますか。		
事前	実践1	実践2
あまり思わない	あまり思わない	あまり思わない
振り返りの記述		
①学習を振り返り、新たに気づいた点や自分の理解や関心がどのように変わったのか書いてみよう。		
実践1 あんまり差別も抑圧も関係ないかなって思ったけど、調べてく上で知らなかったが身近にありそうなものがたくさん出てきたので一概に関係ないとは思えないなど。		

実践2 差別は割と無意識的にしているものなんだなと思った。
②今後の自分に生かすことができる視点や、次に学習したいと考えたことは何か。
実践1 穢ってというのが概念だから、そういったものの変化に注目していくのは今後も必要になってくると思った。
実践2 一番最初に差別があったのはいつだったのか、また、どんなものだったのか。

生徒Bは、事前調査の様々な課題や差別や抑圧に関する課題への関心が全くない生徒であった。実践1によって、差別や抑圧の問題を考えるために歴史を学ぶ意義については「非常に思う」となったが、他の意識調査は実践1と実践2でも「どちらともいえない」と「あまり思わない」と答えた。また、振り返りの記述では、自分との関係に関わる内容を書いているが、これが意識調査の回答まで影響を与えられていない。このような意識の変化になった原因としては、学習内容の理解が深まっていないことや、他者との交流の少なさが影響していると考えられる。

IV まとめ

1 実践の成果と課題

(1) 成果

差別や抑圧の授業を受ける前に比べると、差別や抑圧に関する問題への意識の高まりが見られた。特に、差別の原因や理由について、歴史を通して学ぶ意義を生徒が感じている様子や、現代の課題を考察するきっかけとなっている様子があった。

また、歴史における差別の様子と現代の差別の様子を比較し、相違点や類似点を考察することで、現代の社会問題の相対化が図れた生徒も一部いた。このような様子から、過去に存在した差別や抑圧に関する学習をすることで、現代の社会に存在する差別や抑圧といった社会課題に対し、生徒が敏感になる可能性が十分にある授業といえる。

(2) 課題と改善策

授業実践を通して、意識の変化がみられない生徒や、振り返り内容の記述の深まりがない生徒がいた。このような原因の一つとして、生徒自身が、これまでの学習内容や、学びの様子を振り返ることができていないと考えられる。そのため、生徒がこれまで考えたことや感じたことなどの学びの様子を振り返られるように、生徒一人ひとりにこれまでの学びをフィードバックしていきたい。

また、社会課題の解決に参加する意欲や社会課題に対する当事者意識の醸成が不足していた。そのため、「自分とどのような関わりがあるのか?」という認識を深めることや、「どのように課題を解決していけるのか?」という問いを歴史から学び、課題解決について議論する学習時間を確保する。その中で、自分との関わりや課題解決方法と課題解決への参加について、他者と議論していく中で、自分の認識を広げ、考えを深めていけるように支援する。

2 今後の展望

今後の授業では、近世・近代・現代と各時期で差別や抑圧に関する学習を行い、蓄積した知識などをもとに、3年生の最後で現代の日本の課題の探究学習を実施する。

この授業展開の中では、前述したように生徒が自分の学びを踏まえたうえで新たな学習内容に取り組めるようにし、社会課題の解決に参加する意欲向上や社会課題に対する当事者意識の醸成ができる授業方法を取り入れる。

また、育成したい生徒像として設定した「現代に生じる社会課題に関する歴史的経緯を学んで知識を獲得し、社会課題に敏感になり、課題に対して議論ができ、課題解決に参画できる生徒」の実現に向けた授業の効果検証や、「公民としての資質・能力」の育成を目指した歴史学習のあり方の考察をさらに深める。

〈注〉

- (1) 青山昌平「公民科における現代の諸課題を扱った主権者教育の授業開発－ウクライナ戦争を扱った授業実践報告－」愛知教育大学附属高等学校研究紀要第51号。
- (2) 文部科学省：今後の主権者教育の推進に向けて（最終報告）（令和3年）
https://www.mext.go.jp/content/20210331-xt_kyoiku02-000013640_1.pdf
- (3) 加藤公明「第4章 民主社会の担い手を育てる歴史教育」加藤公明『考える日本史授業 3 平和と民主社会の担い手を育てる歴史教育』地歴社、2007。
- (4) 星瑞希「歴史論争問題学習の指導と評価の方略－生徒の価値や思想が含まれる言説構築をいかに指導し、評価するか－」社会系教科教育学研究 2022年 第34号 pp.21－30。
- (5) 星瑞希「高校生は主権者育成を目標とする歴史授業をいかに意味づけるのか－習文脈と生徒の特性に着目して－」質的心理学研究 2023年 22巻1号 pp.83－101。
- (6) 青山昌平「日本史探究における公民としての資質・能力の育成を目指した授業－室町時代の差別や抑圧の授業開発とシンポジウムの協議内容とその考察－」愛知教育大学附属高等学校研究紀要第51号。

〈引用及び参考文献〉

- ・文部科学省：高等学校学習指導要領（平成30年告示）
https://www.mext.go.jp/content/20230120-xt_kyoiku02-100002604_03.pdf
- ・文部科学省：【地理歴史編】高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説
https://www.mext.go.jp/content/20220802-xt_kyoiku02-100002620_03.pdf
- ・文部科学省：次代の主権者育成に求められる政治的・経済的教養の教育に関するタス

クフォー ス取りまとめ

https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/ikusei/220809-mxt_kyoiku01_01.pdf

- ・高知県庁：人権教育資料集 1（同和問題）
つながり
https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310308/files/2009111100164/2009111100164_202_254_165_145_uploaded_attachment_18527.pdf
- ・外川正明『部落史に学ぶ2 歴史と出会い 未来を語る多様な学習プラン』解放出版社、2006年。
- ・磯前純一監修『差別と宗教の日本史—救済の〈可能性〉を問う』法藏館、2022年。
- ・勝浦令子『日本宗教史4 宗教の受容と交流』「二 穢れ観の伝播と受容」吉川弘文館、2020年。
- ・金井清光『中世の癩者と差別』岩田書院、2003年。
- ・大橋俊雄『一遍』吉川弘文館、1988年。
- ・脇田晴子『日本中世被差別民の研究』岩波書店、2002年。